援助要請者が予測する援助者のコスト

性差に着目した検討

○竹ヶ原 靖子 安保英男

(東北大学教育学研究科)

キーワード: 援助要請行動、相談行動

Help-Giver's Costs Involving Help-Seeking that a Help-Seeker Predicts

○Yasuko TAKEGAHARA Hideo AMBO

(Graduate School of Education, Tohoku University)

Key words: Help-Seeking Behavior, Consulting Behavior

目的

援助要請行動(help-seeking behavior)とメンタルヘルスには重要な関連があることが示されており(e.g., Deane et al., 2001)、その中でも、本研究では、援助要請の内容が援助要請者の心身に特に影響を与えるものとして相談行動の抑制に焦点を当てた。

援助要請者は、援助要請を行なうかどうかを決定する際に、自身だけでなく、援助を提供する援助者のコストも考慮している(DePaulo & Fischer, 1980)。Flynn & Lake (2008)は、援助要請者が予測する援助者のコストと、実際に援助者が感じるコストとにズレがあることを示し、そのズレが援助要請行動を抑制しうることを示唆した。

援助要請行動には性差が見られることが従来から指摘されており、女性は男性よりも援助要請に肯定的で(Leong & Zachar, 1999)、援助要請行動を取りやすい(山口・西川, 1991)。また、援助者の性別に焦点を当てた研究(e.g., Nadler et al., 2009)から、援助者の性別によっても異なる影響があることが推測される。本研究では、援助要請者が予測する援助者のコストが、援助要請者と援助者の性別によって差があるかどうかを探索的に検討することとした。

方法

回答者 大学生・大学院生 267 名(男性 166 名、女性 100 名、不明 1 名)に対して、シナリオを用いた質問紙調査を行った。

手続き まず、回答者に最も親しい人物(以下 A)を想定させて、A との親しさについての項目(榎本(2003)から一部抜粋)に回答した。次に、対人関係の悩みを抱え、A に相談しようとしているシナリオを提示した。回答者は、シナリオを読んだ後、(1)A に相談しようと思うかどうか(5 件法)、(2)A が相談にのってくれるかどうか(4 件法)、(3)相談にのる・のらないことに関して A が抱えるコスト(7 件法; 竹ヶ原・安保, 2013)、(4)相談をしたときの A の感情(4 件法; 寺崎・岸本・古賀(1992)から一部抜粋)、(5)(1)~(4)を踏まえ、A に相談するかどうか(2 件法)、に回答した。分析には、(3)(4)を用いた。

結果

回答に不備があった者を除き、189 名を分析対象とした。相談にのることで生じる援助コストとして、「援助コスト」因子($\alpha=.87$)、「抑鬱・不安」因子($\alpha=.88$)、「敵意」因子($\alpha=.95$)、「倦怠」因子($\alpha=.83$)の 4 因子、相談を断ることで生じる非援助コストとして、「評価懸念」因子($\alpha=.85$)、「相手からの不満」

因子($\alpha=.66$)、「罪悪感」因子($\alpha=.79$)の 3 因子の平均得点を分析に用いた。

援助要請者の性別と潜在的援助者の性別の組み合わせが、援助者コスト予測に与える影響を検討するため、回答者(援助要請者)の性別と潜在的援助者である A の性別を独立変数、A との親しさを共変量、援助者コストの 7 因子の各平均得点を従属変数とする共分散分析を行った。性別ごとの各因子の平均値を Table1 に示した。

その結果、「援助コスト」因子で、援助要請者は、異性よりも同性に対して時間や労力を割くことのコストを高く予測していた ($F(1, 165) = 10.25, p < .01$)。しかし、「相手からの不満」因子では、援助要請者が女性の場合、援助者の性別によらず、男性の援助要請者よりも、相談を断ることで援助要請者が不満をもらすというコストを有意に高く予測した ($F(1, 165) = 9.74, p < .01$)。A の性別の主効果は有意傾向であった ($F(1, 165) = 3.85, p = .051$)。その他の援助者コスト因子については有意な差は見られなかった。

考察

援助コスト 異性における身近な他者として恋人を想定した回答者が相当数いたと予測されることから、同性の友人と比較して、相談にのってもらうことで援助者に時間や労力を割いてもらうことを気兼ねしなかったためだと言える。

相手からの不満 女性は男性よりも、他者に感情表出を行う傾向にあるため(内田・山崎, 2007)、援助要請者の女性は、援助者が相談にのらない場合、相手に不満をこぼす可能性が高いと考えられる。その結果として、女性は男性よりも、相談を断ると援助要請者側が援助者側に対して不満をこぼすというコストを高く予測したと考えられる。一方で、男性は女性よりも援助要請行動を行なわないことから(Rickwood & Braithwaite, 1994)、援助要請行動が援助者にどのように捉えられるかを考える機会が女性より少ないために、コストを女性ほど意識しないのだろう。

引用文献

- DePaulo, B. M. & Fischer, J. D. (1980) The Costs of Asking for Help, *Basic and Applied Social Psychology*, 7, 23-25
Flynn, F. J. & Lake, V. K. B. (2008) If You Need Help, Just Ask: Underestimating Compliance With Direct Requests for Help, *Journal of Personality and Social Psychology*, 95, 128-143

Table 1. 援助要請者と援助者の性別ごとの平均値

援助要請者 性別	援助者 性別	援助コスト(n=174)		抑鬱・不安(n=174)		敵意(n=171)		倦怠(n=172)		評価懸念(n=173)		相手不満(n=174)		罪悪感(n=176)	
		M	SD	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD
男性	男性	3.42	1.17	1.97	.53	1.68	.50	2.01	.56	3.51	1.07	3.71	1.09	4.47	1.42
	女性	2.80	1.10	1.89	.55	1.62	.49	1.76	.51	3.14	1.12	3.43	1.11	4.31	1.40
女性	男性	2.50	1.20	1.93	.54	1.49	.54	1.68	.55	3.20	1.29	4.39	.90	4.66	1.51
	女性	3.29	1.24	2.04	.54	1.62	.62	1.81	.46	3.44	1.29	3.95	1.29	4.64	1.58

※nにばらつきが見られるのは各コスト因子ごとに分析を行ったためである。